

令和3年度町立西和賀さわうち病院の臨床指数

令和4年7月20日 町立西和賀さわうち病院 総括院長 北村道彦

公表の目的：

病院の各種臨床指数を公表することにより、職員間で病院の現状と問題点を共有し改善活動につなげる。さらに、住民、町の関係者にも病院の現状と問題点を知ってもらうことにより、住民参加、オール西和賀体制、すなわち、かつて昭和30年代に旧沢内村で深澤晟雄村長が提唱した『一体態勢』の構築を目指したい。

1. 医事関連

1) 入院患者統計、入院患者の平均年齢

	平成	平成	平成	平成	平成	平成	令和	令和	令和
	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度
新入院患者数	204	337	425	418	380	419	414	423	443
新退院患者数	210	326	419	418	375	423	420	427	426
入院延べ患者数	4,574	6,106	9,538	9,498	9,200	9,752	9,096	8,968	9,069
在院延べ患者数	4,784	6,432	9,957	9,913	9,570	10,169	9,509	9,386	9,491
1日平均入院患者数	12.4	16.7	26.1	26	25.2	26.7	24.9	24.6	24.8
1日平均在院患者数	12.9	17.6	27.2	27.2	26.2	27.9	26	25.7	26
病床利用率(%)	31.3	41.8	65.2	64.9	62.8	66.8	62.1	61.4	62.1
病床稼働率(%)	32.8	44.8	68	67.7	65.4	69.7	65	64.3	65
平均在院日数(日)	22.1	18.4	22.6	22.7	24.4	23.3	21.8	21.1	20.9
(除外前)									

解説；令和3年度の新入院患者数は、ここ数年の中では最高であった。一方、入院延べ患者数はここ数年足踏み状態である。地域病院として、病床稼働率70%を引き続き目指す所存である。

	平成	平成	平成	平成	平成	平成	令和	令和	令和
	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度
入院患者総数	204	337	425	418	380	419	414	423	443
男	101	163	195	186	174	185	175	181	179
女	103	174	230	232	206	234	239	242	264
平均年齢	79.1歳	79.6歳	80.5歳	80.7歳	82.1歳	81.3歳	82.1歳	82.3歳	84.4歳

解説；入院患者の年齢は上昇し、令和3年度は84.4歳と過去最高であった。それに従い、退院支援、退院調整に要する時間が増加しているが、上記の通り、平均在院日数は、約20日に抑えられている。

2) 入院統計

	平成 25年度	平成 26年度	平成 27年度	平成 28年度	平成 29年度	平成 30年度	令和 元年度	令和 2年度	令和 3年度
自宅	148	222	235	259	238	272	252	260	266
医院(町内)	15	25	55	38	36	46	58	34	50
病院	18	41	61	51	48	58	54	57	64
施設	23	50	74	70	47	44	50	73	63
合計	204	338	425	418	369	420	414	424	443

解説：入院は、自宅が多いが、町内の医院や施設、基幹病院と万遍なく受けている。

3) 町外からの入院数

平成26年 度	平成27年 度	平成28年 度	平成29年 度	平成30年 度	令和元年 度	令和2年 度	令和3年 度
4	10	18	8	13	10	11	14

解説；町外からの患者は、最近では10名前後で推移している。町外からの入院の増加は、大切な使命であるが、一方で現場では、患者家族の見舞いや病院からの説明の利便性の問題があり、克服すべき課題がある。

4) レスパイト入院

	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
延べ入院数	15名	19名	8名	15名
延べ入院日数	191日	223日	70日	191日
平均在院日数	12.7日	11.7日	8.8日	12.7日

解説：レスパイト入院は平成29年12月から開始した。介護ニーズが高いこの町で、介護者の負担軽減のための入院は必要である。今後も医療ニーズの高い方を中心にレスパイト入院の受け入れを続けたい。

5) 退院統計

	平成 25年度	平成 26年度	平成 27年度	平成 28年度	平成 29年度	平成 30年度	令和 元年度	令和 2年度	令和 3年度
自宅	147	198	229	260	211	264	238	258	241
医院(町内)	1	18	26	25	11	31	38	22	29
病院	17	21	46	35	54	47	51	32	54
施設	14	34	78	61	46	46	55	74	59
死亡	18	38	40	37	40	34	38	43	43
合計	207	328	419	418	362	422	420	429	426

解説；入院治療後は原則的に紹介先の医院、施設に紹介している。病院、医院、施設と、いずれについても連携は安定して展開中である。死亡退院数は40名前後で推移している。

6) 外来患者統計：1日平均患者数

	平成 26年 度	平成 27年 度	平成 28年 度	平成 29年 度	平成 30年 度	令和元 年度	令和2 年度	令和3 年度
内科	8,830	9,455	9,682	9,310	9,090	9,104	8,562	9,201
外科	7,059	7,068	6,457	6,540	6,382	6,052	5,653	5,561
眼科	1,343	1,354	1,318	1,235	1,256	1,216	1,036	1,235
小児科	185	262	222	221	175	176	99	73
訪問	143	103	61	82	44	80	176	199
施設（ぶなの園）	767	684	714	748	761	709	671	723
神経内科			237	250	226	195	274	231
皮膚科	575	717						
耳鼻咽喉科	154	338	367	340	359	351	282	337
泌尿器科	122	344	423	424	363	401	300	474
整形外科	136	472	600	651	773	1,040	992	957
腎臓内科			47	128	178	172	145	112
循環器内科		40	125	113	108	121	92	95
禁煙外来					12	17	18	3
透析	2,270	2,514	2,748	3,009	3,082	2,966	2,955	2,733
健診・特定健診・人間ドック	427	429	400	417	370	373	343	367
歯科	7,312	7,291	7,396	7,424	7,784	7,621	6,351	6,674
認知症外来（再掲）	22	446	486	654	756	842		
リハビリ（再掲）	2,747	2,342	1,353	1,382	967	714	755	723
合計	29,323	31,071	30,797	30,892	30,963	30,594	28,039	28,975

解説；外来患者数は、新型コロナ蔓延の影響で減少傾向にある。少子化の流れの中で小児科診療は減少している。包括ケア病床の運用の中で、要件となっている訪問診療件数は増加した。従来から住民の要望が寄せられた専門外来の維持には力を入れ、医療の地域完結性の向上を目指している。透析患者の割合が県の1.5倍以上の当町では、腎臓内科による透析回避診療が重要である。認知症外来は浅尾医師の退職に伴い統計を終了した。認知症に対する外来は神経内科で継続して実施している。禁煙外来には、健康志向の当町のシンボルになることを期待している。

7) 診療単価（単位：円）

	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元 年度	令和 2 年度	令和 3 年度
入院	24,778	21,447	23,247	23,199	22,130	23,647	24,915	31,685	33,011
外来	8,869	9,307	9,632	9,469	9,504	9,003	8,746	9,076	9,182
歯科	5,771	5,732	5,719	5,784	5,840	5,900	6,282	6,977	7,315

解説；国の医療費抑制の流れの中で、診療単価の伸びは抑えられていたが、令和2年度以降は、包括ケア病床の導入で大幅増加を達成できた。

8) 経営収支（単位：千円）

区分	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3
1. 医業収益	406,948	449,400	571,779	564,906	546,432	563,322	553,306	603,523	640,103
1) 入院収益	113,336	137,949	231,467	229,973	211,784	240,463	236,916	297,391	313,310
2) 外来収益	216,331	242,798	266,626	260,584	262,444	251,280	245,521	238,031	250,216
収益合計	619,294	816,809	875,071	872,492	862,081	892,710	908,130	932,036	935,212
うち一般会計繰入	239,569	374,984	275,136	270,161	279,704	282,623	287,856	270,118	239,464
2. 医業費用	624,932	858,067	963,860	963,147	975,676	941,367	939,561	959,755	951,743
1) 給与費	364,596	482,752	497,289	483,479	475,576	486,397	518,893	538,528	569,978
2) 材料費	73,901	101,559	102,813	96,613	97,787	74,392	72,297	72,668	74,566
費用合計	634,235	881,610	983,759	982,407	995,459	943,192	941,277	966,110	953,370
事業損益	-14,941	-64,801	108,688	109,915	33,378	-50,483	-33,147	-34,074	-18,158

令和2年度以降は、包括ケア病床の導入で入院収益が大きく増加している。その結果一般会計繰入金が増加しており、病院経営は適正な方向に向かっている。小原眞院長のリーダーシップとスタッフの協力に感謝する。医業費用の削減に一層努力したい。

9) フットケア外来実績

		令和2年 度	令和3年 度
件数	DM 加算		18
	爪甲除去		132
	胼胝・鶏眼処置		69
	総数	156	219
点数	DM 加算		3,060
	爪甲除去		7,920
	胼胝・鶏眼処置		11,730

	総数	15,180	22,710
--	----	--------	--------

解説：フットケア外来は、ライセンスを取得した多田量子看護師の担当で開始し、令和2年度から実績を集計している。糖尿病性足病変を視野に入れながら、実際は白癬菌症、巻爪などが対象の多くを占めている。患者ニーズが高い領域である。令和3年度は前年度に比べ総数が大きく増加した。

10) ケアマネージャーと病院の連携シート

連携シート発行状況

ケアマネから 病院へ	平成27 年度	平成28 年度	平成29 年度	平成30 年度	令和元 年度	令和2 年度	令和3 年度
発行数	39	43	44	65	80	71	86
対象者	229	207	189	246	245	255	267
発行率	17%	21%	23%	26%	33%	28%	32%
病院からケア マネへ	平成27 年度	平成28 年度	平成29 年度	平成30 年度	令和元 年度	令和2 年度	令和3 年度
発行数	108	113	85	142	121	113	115
対象者	208	199	155	218	224	248	231
発行率	51.9%	56.8%	54.8%	65.1%	54.0%	45.6%	49.8%

サマリーを含めた情報連携状況

ケアマネか ら病院へ	令和元年度	令和2年度	令和3年度
発行数	147	143	160
対象者	245	255	267
発行率	60.0%	56.1%	59.9%
病院からケ アマネへ	令和元年度	令和2年度	令和3年度
発行数	190	189	204
対象者	224	248	231
発行率	84.8%	76.2%	88.3%

解説：ケアマネージャーと病院の連携シートの運用数は、最近は頭打ちの状態であるが、サマリーを代用することで、全体には連携は活発になされており、令和3年度は、病院からは9割に近い情報発信がなされた。

11) 転院患者入院時カンファランス

	平成 26年 度	平成 27年 度	平成 28年 度	平成 29年 度	平成 30年 度	令和 元年 度	令和 2年 度	令和 3年 度
転院患者総数	41	61	50	51	55	55	57	64
カンファランス施行数	38	51	41	35	45	39	39	45
施行率	93%	84%	82%	69%	82%	71%	68%	70%

参加職種	平成 26年 度	平成 27年 度	平成 28年 度	平成 29年 度	平成 30年 度	令和 元年 度	令和 2年 度	令和 3年 度
医師	-	54	46	54	59	46	43	51
看護師	-	95	109	68	72	50	43	53
MSW	-	49	41	35	45	39	39	45
リハビリ技士	-	46	40	32	52	40	38	46
管理栄養士	-	37	32	23	32	28	4	4

参加者	平成 26年 度	平成 27年 度	平成 28年 度	平成 29年 度	平成 30年 度	令和 元年 度	令和 2年 度	令和 2年 度
患者本人	-	10	9	3	6	20	14	16
家族	-	89	75	56	80	64	57	61
ケアマネ	-	22	23	18	20	18	19	23
包括支援センター・町職員	-	18	3	3	8	15	13	13

解説：転院患者の入院時カンファランスは、平成26年4月から開始した。多くは急性期病院である前医での説明とその内容の患者家族の受け止め方、患者家族の思いなどを確認し、当院での治療の目標を共有する重要な場となっている。中間期目標の設定や、時間管理を行うことも多く、退院支援、退院調整を進めるうえで、欠くことができない集まりになっている。カンファランス実施率は70%前後で、参加職種は、コアメンバーである医師、看護師、MSWの他、リハビリ技士と管理栄養士が準コアメンバーである。令和2年度以降は管理栄養士が産休に入り参加できなかった。患者側は、家族とケアマネージャーが中心で、介護保険未申請の場合などは包括支援センターや町の職員が参加している。

12) 病院救急車

		平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元 年度	令和 2年 度	令和 3年 度
総数		4	12	8	7	5	22
内訳	転院	0	11	7	6	1	8
	通院	3	0	0	0	0	9
	一時帰宅	3	1	1	0	0	4
	自宅退院	0	0	0	1	4	1

解説：独居や高齢者同士の世帯が多い高齢の町では、転院や自宅への退院の際の交通手段の確保は大きい課題であり、病院救急車の運用は非常に重要である。最近、終末期の一時帰宅の交通手段として用いることもあり、高い本人、ご家族の満足度が得られている。令和 3 年度は新型コロナワクチン接種の通院に用いられて急増した。

13) 未収金

発生時期	～平成 10 年	平成 10 年～平 成 20 年	平成 20 年～平 成 25 年	平成 25 年～平 成 29 年	平成 30 年度	令和元 年度	令和 2 年度	令和 3 年度	合計
人数	1	8	2	1	1	0	0	0	13
未収金残 額 (円)	32, 310	306, 610	175, 448	17, 490	49, 500	0	0	0	581, 358

解説：未収金を減らすことは、町立病院の重要なミッションである。ここ 3 年間の取り組みは立派である。

14) 訪問診療、訪問看護

		平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元 年度	令和 2 年度	令和 3 年度
介護保険	訪問看護	590	137	218	191	179	127	60	105
	居宅療養 管理指導	97	54	46	40	35	67	148	153
医療保険	訪問看護	3	12	6	31	2	0	4	17
	訪問診療	97	56	51	47	51	66	166	161

解説；平成 26 年度から、入院患者の増加を病院運営の柱とした。そのため、訪問診療、訪問看護の例数は大きく減少していた。その後、令和 2 年度から包括ケア病床を導入したため、その運用の条件として訪問診療が必要であり、件数は急増した。改めて振り返ると、高齢の町では訪問診療、訪問看護医療ニーズは大きく、今後も継続したい。

15) 夜間診療、オンライン診療

夜間診療

平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元 年度	令和 2 年度	令和 3 年度
35	36	42	29	22	20	16

オンライン診療

	令和 2 年度	令和 3 年度
人数	3	3
延べ回数	9	7

解説；夜間診療は住民の要望を受けて、平成 27 年 1 月から開始した（月 1 回、第 2 火曜日）。症例数の増加は認められず、対策が必要である。オンライン診療は、新型コロナウイルス感染症の蔓延対策として導入している。

16) 死亡統計

	平成 23 年 度	平成 24 年 度	平成 25 年 度	平成 26 年 度	平成 27 年 度	平成 28 年 度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和 元 年度	令和 2 年度	令和 3 年度
診断書	40	47	41	44	45	48	50	43	45	55	54
検案書	10	3	6	8	7	0	4	4	7	5	3
計	50	50	47	52	52	48	54	47	52	60	57

解説；当町では高齢化率は上昇しているが、高齢患者数は既に減少傾向にありそれを反映してか、ここ数年、死亡者数はプラトーになっていた。そんな中で令和 2 年度以降は増加傾向を示している。町内のニーズに応じていると考えられる。

17) エンドロールカフェ

平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度
8 例	4 例	5 例	12 例

解説：エンドロールカフェと名称をつけたデスカフェは、終末期治療の充実を目的として平成 29 年から開催している。小原院長の専門的指導のもとで終末期の個々のケアの振り返りとして大変重要な取り組みである。研修医教育の一環とも位置づけており、月 1 回の定期的な開催を期待している。

18) 手術室対応手術数

	平成 25 年 度	平成 26 年 度	平成 27 年 度	平成 28 年 度	平成 29 年 度	平成 30 年 度	令和元 年度	令和 2 年度	令和 3 年度
外来	9	3	5	7	4	11	5	5	9
病棟	1	2	10	21	25	19	14	9	5

合計	8	5	15	28	29	30	19	14	14
医師延人数	10	10	25	42	50	52	32	24	20
スタッフ延人数	24	24	42	95	73	58	44	32	32

解説；過去2年間手術件数は減少傾向にあるが、今後とも積極的に小手術を行なっていきたい。

19) 内視鏡数

	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元 年度	令和 2 年度	令和 3 年度
上部内視鏡	162	134	165	174	139	162	140	171	140
胃瘻	5	10	11	7	4	17	8	15	8
下部内視鏡	42	43	61	98	43	55	62	67	71
ポリープ切除	0	0	1	9	0	0	0	0	3

解説；山下医師と中野医師の応援診療により、内視鏡施行症例数は維持されている。胃瘻のニーズにも十分対応できている。パスを用い、ポリープ切除も開始された。症例数の増加を期待している。

20) 査定

		平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元 年度	令和 2 年度	令和 3 年度 4月－9月
入院	請求 点数	12,209,868	19,360,036	21,218,793	20,201,042	22,144,304	22,046,984	28,955,226	13,401,782
	査定 点数	21,734	37,234	41,929	24,724	16,129	33,280	12,321	2,142
	査定率	0.18%	0.19%	0.20%	0.12%	0.07%	0.15%	0.04%	0.02%
外来	請求 点数	19,591,230	20,252,317	21,549,861	22,116,095	20,267,161	19,476,612	19,258,301	10,081,589
	査定 点数	41,476	57,390	34,161	33,259	31,559	27,390	23,654	8,013
	査定率	0.21%	0.28%	0.16%	0.15%	0.16%	0.14%	0.12%	0.08%
合計	請求 点数	31,801,098	39,612,353	42,768,654	42,311,082	424,114,654	41,523,596	48,213,527	23,483,371
	査定 点数	63,210	94,624	76,090	57,983	47,688	60,670	35,975	10,155
	査定 点数率	0.20%	0.24%	0.18%	0.14%	0.11%	0.15%	0.07%	0.04%

解説：病院を挙げて査定減に取り組んでおり、成果が上がりつつある。令和2年度は初めて0.1%以下に下がり、令和3年度前期は、目標の0.05%以下を初めてクリアした。包括ケア病床運用が軌道に乗った現在、外来での適正請求に向け更に対策を強化したい。

21) 減耗（円）

	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元 年度	令和 2 年度	令和 3 年度
内服	438,027	333,952	85,024	154,621	261,480	228,242	228,844	518,362	102,630
注射	17,243	27,851	105,364	161,826	625,138	236,101	107,805	80,855	141,688
材料	43,565	127,890	12,000	144	30,389	0	0	0	42,462
合計	498,835	489,693	202,388	316,591	917,007	464,343	336,649	599,217	286,780

解説；令和3年度は内服薬の減耗を削減でき、減耗総金額が過去二番目に低かった。

22) 光熱水費

	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度
燃料チップ	4,127,760	6,097,140	5,987,520	6,766,200	5,821,200	6,375,950	6,294,750	6,860,700
重油	1,612,440	631,800	577,800	1,209,600	640,440	829,800	809,490	1,664,300
電気	11,396,589	16,756,296	15,576,300	17,964,488	18,689,365	16,876,340	15,560,064	17,614,456
上水道	1,876,932	1,353,592	1,410,696	1,391,040	1,448,280	1,509,726	1,574,320	1,727,000

解説：光熱水費の適正使用は病院の重要課題である。特に金額の大きい電気の節約活動に力を入れていきたい。

23) 退院時要約の2週間以内作成率

	令和 3 年度
退院患者数	426
2週間以内作成件数	174
2週間以内作成率	40.8%

解説：退院時要約の2週間以内作成率は、令和3年度初めて集計した。令和3年度は41%であり、今後の改善に期待したい。退院時要約作成支援業務に携わる医療クラークに感謝する。

2. 救急

1) さわうち病院の救急車受け入れ患者の内訳、ウォークイン来院者の内訳、へり搬入・搬送数

救急車受け入れ患者の内訳

	平成 25年 度	平成 26年 度	平成 27年 度	平成 28年 度	平成 29年 度	平成 30年 度	令和元 年度	令和2 年度	令和3 年度
他院搬送	3	15	7	15	16	17	6	17	22
入院	43	68	71	73	63	55	66	72	68
死亡	8	7	9	4	6	8	12	14	7
帰宅	16	23	36	62	53	32	43	18	47
合計	70	113	123	154	138	111	127	121	144

ウォークイン来院患者の内訳

	平成 25年 度	平成 26年 度	平成 27年 度	平成 28年 度	平成 29年 度	平成 30年 度	令和元 年度	令和2 年度	令和3 年度
他院搬送			26	14	10	13	26	18	26
入院			90	74	55	59	133	116	72
死亡			2	6	6	3	3	2	2
帰宅			574	514	508	465	535	333	437
合計			692	608	579	540	697	469	537

ヘリ搬送・搬入

	平成 25年 度	平成 26年 度	平成 27年 度	平成 28年 度	平成 29年 度	平成 30年 度	令和元 年度	令和2 年度	令和3 年度
ヘリ搬送				1	0	0	2	1	2
ヘリ搬入				3	0	0	0	0	0

解説；令和3年度の救急車の受け入れは、最近では過去2番目に多く、約半数が入院した。帰宅は約3割であり、当地の救急車の安易な利用は少ない。ウォークイン来院患者の内訳をみると、死亡、転院、入院を合わせると約20%を占めており、トリアージの重要性が示されている。基幹病院までの距離が長いことから、ヘリコプターの利用推進が必要と考えられる。

2) 西和賀消防の活動状況とさわうち病院の救急車受け入れ状況

	平成 25年 度	平成 26年 度	平成 27年 度	平成 28年 度	平成 29年 度	平成 30年 度	令和 元年 度	令和 2年 度	令和 3年 度
西和賀消防救急車出動件数	294	302	316	322	335	317	334	303	350

(a)									
西和賀消防救急車搬送件数 (b)	269	280	289	297	304	295	316	278	327
西和賀消防救急車搬送人数 (c)	280	287	300	301	305	298	320	283	331
さわうち病院搬送件数 (d)	67	104	111	144	129	100	124	114	142
カバー率 (d/b)	24.9%	37.1%	38.4%	48.4%	42.4%	33.9%	39.2%	41.0%	43.4%
さわうち病院搬送人数 (e)	69	111	115	144	129	103	125	115	143
カバー率 (e/c)	24.6%	38.7%	38.3%	47.8%	42.3%	34.6%	39.1%	40.6%	43.4%
不搬送件数 (f)	25	22	9	13	22	17	24	13	22
不搬送人数 (g)	25	23	11	13	22	17	24	13	22
救急車応需件数率 (d/(d+f))	72.8%	82.5%	92.5%	91.7%	85.4%	85.5%	83.8%	89.8%	86.6%
救急車応需人数率 (e/(e+g))	73.4%	82.8%	91.3%	91.7%	85.4%	85.8%	83.9%	89.8%	86.7%

解説；令和3年度のさわうち病院は西和賀町の救急車142台を受けており、最近では2番目に多かった。カバー率は43%、救急車応需率は87%で適正なレベルと思われる。

3) 令和3年度、当院に収容依頼後の不搬送事例の重症度と搬送先

	軽症	中等症	重症	死亡
例数	13	8	1	0
割合	59.1%	36.4%	4.5%	0.0%

	中部病院	平鹿総合病院	中央病院	その他
例数	8	5	0	0
割合	61.5%	38.5%	0.0%	0.0%

解説：令和3年度における、当院に収容依頼後の不搬送事例は22例で、うち軽症例は約6割と多かった。軽症例の不搬送を減らすことが町立病院の使命であり努力したい。不搬送事例の多くを引受けてくれた中部病院や平鹿総合病院に感謝します。

4) 令和3年度の西和賀消防管内の救急車搬送先と重症度

	死亡	重症	中等症	軽症	合計	カバー率
さわうち病院	7	18	72	46	143	43.2%
中部病院	0	23	40	24	87	26.3%
平鹿総合病院	0	11	17	9	37	11.2%
中央病院	0	4	16	0	20	6.0%
その他	0	12	18	14	44	13.3%
合計	7	68	163	93	331	
重症度の割合	2.1%	20.5%	49.2%	28.1%		

解説；さわうち病院は、重症度に関係なく、万遍に救急車を受けている。また死亡例の全てを受け入れており、地域病院の責務を全うしている。重症者の割合が多い基幹病院に感謝している。西和賀町では他の地域と比べ軽症者が少なく救急車の使用は適正と思われる。

5) 雪関連事故

	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
件数	29	18	25	30	17	13	32	21
重症度中等度以上	8	7	11	12	9	7	12	12
骨折（再掲）	6	6	10	7	9	7	12	12
死亡（再掲）	0	1	1	0	0	0	1	1

解説：令和3年度の雪関連事故は21例と例年並みであった。半数以上が重症で、残念ながら死亡例が1名あった。

3. 各部門の活動

1) 薬剤部門

	平成 25年 度	平成 26年 度	平成 27年 度	平成 28年 度	平成 29年 度	平成 30年 度	令和元 年度	令和2 年度	令和3 年度
外来院内処方数	3,174	3,190	3,434	2,737	2,541	760	520	285	361
外来院外処方数	12,350	12,512	12,655	13,296	13,426	14,439	14,946	13,822	14,524
入院処方数	1,687	2,190	2,883	3,201	3,625	4,531	4,342	4,399	5,155

	平成28 年度	平成29 年度	平成30 年度	令和元 年度	令和2 年度	令和3 年度
後発品のある先発品＋後発品規格単位	360,975	350,427	208,428	135,473	110,149	122,385
後発品の規格単位	157,354	185,522	135,617	110,265	97,814	106,229
後発品の使用割合	43.6%	52.9%	65.1%	81.4%	88.8%	86.8%

解説；平成30年度に小児、透析、注射の処方を原則院外とした。それに伴い外来の院内処方はいくぶん減少した。一方、令和3年度は新型コロナ感染症の蔓延に伴う対応としてドライブスルー診察を導入したため外来の院内処方は若干増加した。外来の院外処方数には大きい変化はなかった。入院患者の増加と高齢化を反映して入院処方数は増加している。令和3年度の後発品の使用割合は87%と高い値を維持できた。

2) 放射線部門

	平成25 年度	平成26 年度	平成27 年度	平成28 年度	平成29 年度	平成30 年度	令和元 年度	令和2 年度	令和3 年度
CR	2,201	2,518	3,009	2,872	2,943	3,069	3,152	3,460	3,646
CT	372	464	834	828	875	1096	969	957	1,285
骨密度	691	667	738	667	825	905	986	975	1,053
歯科	368	414	487	418	410	417	453	321	286
透視	51	54	53	43	97	125	104	116	112
ポータブル	131	161	124	24	35	9	28	15	25
MRI				163	139	144	168	224	175
合計	3,814	4,278	5,245	5,015	5,324	5765	6,100	6,068	6,582

依頼検査数

平成26年 度	平成27年 度	平成28年 度	平成29年 度	平成30年 度	令和元年 度	令和2年 度	令和3年 度

CT	39	50	44	32	58	77	37	33
MRI			2	2	1	0	1	0
合計	39	50	46	34	59	77	38	33

Ai 件数（死亡例での CT 施行件数）

	平成 26年 度	平成 27年 度	平成 28年 度	平成 29年 度	平成 30年 度	令和 元年 度	令和 2年 度	令和 3年 度
Ai 件数	1	5	1	5	2	7	4	6

解説；令和3年度の検査総数は増加し平成26年度以降で最高となった。内訳ではCTと骨密度が最高の実施数となった。放射線技師の二人体制の効果である。令和3年度は町内開業医からの依頼検査数は前年同様の施行数であった。CTやMRIの施行依頼に応えることは当院の使命であり、今後もスムーズな依頼対応ができるよう取り組んでいきたい。Aiはここ数年定着している。

3) 検査部門

	平成 25年 度	平成 26年 度	平成 27年 度	平成 28年 度	平成 29年 度	平成 30年 度	令和元 年度	令和2 年度	令和3 年度
検体数	7,470	9,666	10,946	10,415	8,219	12,684	11,509	11,691	13,545
肺機能	360	321	353	93	86	94	86	10	7
心電図	1,021	1,065	1,353	1,250	1,249	1,224	1,136	1,409	1,546
超音波	351	378	603	598	481	470	363	362	321

解説；令和3年度は、検体数、心電図検査数が過去最高であった。令和2年以降、新型コロナウイルス感染症対策のため肺機能は減少した。西田技士のライセンス取得に伴い、今後超音波検査数の増加を期待している

4) リハビリテーション部門

	平成25 年度	平成26 年度	平成27 年度	平成28 年度	平成29 年度	平成30 年度	令和元 年度	令和2 年度	令和3 年度
入院	1,144	1,368	2,409	2,905	2,968	4,005	3,852	3,783	4,542
外来	2,840	2,874	2,560	1,455	1,427	903	618	776	726
訪問	745	638	785	666	479	299	382	317	323

通所			858	1,000	831	978	933	928	891
合計	4,729	4,880	6,612	6,026	5,705	6,165	5,786	5,804	6,482

解説；平成30年度以降、入院患者中心の運営を行っている。入院患者の高齢化に伴い、リハビリのニーズは毎年上がっており、令和3年度は入院リハビリ施行数が過去最高であった。高齢の町ではニーズが高い、介護保険を用いた訪問リハや通所リハは、例年通りの施行状況であった。

退院前リハビリ訪問指導

	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
件数	8件	15件	18件	9件	27件	16件	18件	21件

解説；入院患者の在宅移行を安全で不安なく行なうためには、退院前リハビリ訪問指導は必須であり、令和3年度も積極的に施行されていた。

5) 栄養管理部門

給食、特別加算食、透析外来食、ドック食の推移

	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
入院給食延数	9,834	15,903	26,291	26,164	22,676	26,014	23,595	23,809	24,359
特別加算食	2,059	1,680	6,393	6,433	5,817	7,265	7,696	7,807	7,909
率 (%)	20.9%	10.6%	24.3%	24.6%	25.7%	28.4%	32.6%	32.8%	32.5%
透析外来食	1,432	1,612	1,898	2,031	2,166	2,046	1,313	312	263
ドック食数	338	310	331	290	325	264	254	211	227

解説；給食部門は、令和2年度は委託から院内組織に変更する大きな変化があった。タイムリーな個別対応や非加熱野菜の提供、多彩なメニュー、食欲を誘う提供形態など新しい試みを次々に展開してくれている。数値として令和3年度は前年度と同数の給食を提供した。特別加算食率は高く維持できた。新型コロナ感染症蔓延の影響で透析外来の給食を制限したため、透析外来食の提供数は大きく減少している。

栄養指導件数

	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
外来・入院	84	51	53	79	45	80	15	37	57

ドック	338	310	326	300	325	260	254	211	227
-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----

解説；外来・入院の栄養指導件数は常勤管理栄養士の産休・育休の影響で減少していたが、令和3年度は増加した。ドックの栄養指導数も増加傾向にある。

給食の栄養給与充足率

	基準	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
エネルギー	100%	99%	100%	100%	100%	100%
たんぱく質	95~105%	93%	93%	96%	94%	94%
脂質	95~105%	98%	100%	98%	100%	100%
食塩	100%以下	99%	100%	100%	101%	99%
カルシウム	100%以上	93%	92%	92%	88%	100%
鉄	100%以上	113%	107%	135%	120%	123%
ビタミンA	100%以上	97%	101%	104%	90%	101%
ビタミンB1	100%以上	75%	75%	81%	85%	99%
ビタミンB2	100%以上	87%	85%	92%	88%	98%
ビタミンC	100%以上	106%	110%	124%	108%	107%
食物繊維	100%以上	68%	68%	78%	83%	101%

解説；以前からの課題であったビタミンB1、B2、食物繊維の充足率は目標のレベルに上昇した。給食部門が委託から病院直営になった効果で大変喜ばしい。

入院給食嗜好調査

総合満足度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
満足	10	13	9	17	35
普通	7	11	14	8	12
不満	0	0	0	3	0
未回答	0	1	0	0	0
総計	17	25	23	28	47
満足の割合 (%)	58.8%	52.0%	39.1%	60.7%	74.5%

解説；入院給食嗜好調査の成績は、令和3年度は過去最高であった。誠に立派である。給食部門が委託から病院直営になった効果で、スタッフの頑張りに感謝している。

摂食機能療法

平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度

対象者	25	21	29	51	34	30	36	34
算定回数	494	362	611	784	408	467	451	467
算定可能日数	501	377	616	788	419	467	451	467
実施率 (%)	98.6%	96.0%	99.2%	99.5%	97.4%	100%	100%	100%

解説；高齢者が多く摂食嚥下機能障害患者が多いため、NST活動の一環として、摂食機能療法には力を入れている。令和3年度は例年通りの活動数であった。

6) 透析

	平成 21年 度	平成 22年 度	平成 23年 度	平成 24年 度	平成 25年 度	平成 26年 度	平成 27年 度	平成 28年 度	平成 29年 度	平成 30年 度	令和 元 年 度	令和2 年 度	令和3 年 度
延べ透析患者数			1,633	1,951	2,129	2,334	2,746	2,919	3,009	3,100	3,100	3,078	2,925
延べ水質管理数			1,633	1,951	2,129	2,334	2,746	2,919	3,009	3,100	3,212	3,078	2,925
患者数（年度末）	8	11	13	15	15	19	20	21	20	21	22	22	18
新規導入	8	3	3	3	1	5	3	1	1	1	1	1	1
離脱			0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0
死亡			0	1	1	1	0	2	0	0	0	1	3
転院			1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
延べ人工呼吸患者			1	1	1	2	3	2	2	2	4	2	3
シャントPTAi 依頼件数							4	13	10	13	13	20	20
人工呼吸器患者			1	1	1	2	3	2	4	2	4	2	3
CART療法患者数				2							1		1

解説；当町は透析患者の割合が県の平均値より1.5倍高く、腎不全患者の透析導入回避は喫緊の課題である。令和3年度の透析患者数は低下した。ここ数年間の透析導入が各1名と低下しており、腎臓内科の活動や、一般内科でのCKD（慢性腎臓病）管理の強化が、一定程度奏功したと考えられる。人工呼吸の実施は例年通りであった。

7) 歯科

歯科医の保健活動

	平成 25年 度	平成 26年 度	平成 27年 度	平成 28年 度	平成 29年 度	平成 30年 度	令和 元年 度	令和 2年 度	令和3 年度
学校医・保育所医活動	14.5	13	15	15.8	11.8	13	17.3	10.3	14
幼児・就学時健診活動	10	11.5	11.5	9.8	7.6	7.3	8.3	4.6	6.7
人間ドック健診活動	37	34	37.5	34.2	38	42.2	31.5	28	30.7
歯科保健講話	1	4.5	3.5	4	0	1	0	0	0
学校保健会活動	12	14	15	13.3	12	15.3	12.5	9	6.5
障害者施設健診活動	0	0	4.5	0	2.3	0	3.5	2.5	2.7
計（時間）	74.5	77	87	76.9	71.7	78.8	73.1	54.4	60.6

骨粗鬆症治療関連歯科診察（顎骨壊死予防）

	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
人数	33	20	16	19

解説；多方面にわたり、歯科医の保健、福祉活動は精力的に行なわれている。顎骨壊死予防のための骨粗鬆症治療前歯科診察は、医科歯科連携の大きなテーマであり、確実な歯科紹介を続けたい。

歯科衛生士の保健活動

	平成25 年度	平成26 年度	平成27 年度	平成28 年度	平成29 年度	平成30 年度	令和元 年度	令和2 年度	令和3 年度
実施延人数	2,145	1,939	1,871	2,063	1,674	1,495	1,562	1,441	1,230
衛生士延人数	240	202	207	217	210	108	176	162	153
所要時間	156時 間10分	148時 間10分	146時 間40分	145時 間25分	143時 間35分	136時 間35分	122時 間30分	90時間 20分	90時間 20分

解説；歯科衛生士は、西和賀町の歯科保健活動に積極的に関わっている。

歯科技工士の活動

	平成 25年 度	平成 26年 度	平成 27年 度	平成 28年 度	平成 29年 度	平成 30年 度	令和 元年 度	令和 2年 度	令和 3年 度
義歯（新義歯作成、修理、リベース）	1337	1,286	1,374	1,240	1,285	1,716	1,351	1,025	1,060
インレー、クラウン、ブリッジ、	357	377	246	286	320	214	292	295	369

硬質レジン前装冠									
自費治療（矯正、金属床、ハイブリッドなど）	0	7	23	12	19	17	12	13	16
* 歯科技工加算	342	329	335	289	302	326	304	271	306

解説； 令和3年度の歯科技工士の活動は、ほぼ例年通りであった。NST活動の中で歯科業務に関してはターゲットの半数は義歯であり、今後歯科技工士のベツトサイドや院外の活動の展開を期待している。

4. 医療の質の検証

1) 褥瘡発生率

	平成 25年 度	平成 26年 度	平成 27年 度	平成 28年 度	平成 29年 度	平成 30年 度	令和 元年 度	令和 2年 度	令和 3年 度
院内	9	7	6	8	5	6	6	5	3
持込み：在宅	12	14	9	13	7	14	19	17	6
持込み：施設	6	6	6	7	5	3	6	8	2
持込み：他院	3	3	1	3	5	7	6	2	2
合計（持込）	21	23	16	23	17	30	31	27	10

	平成 26年 度	平成 27年 度	平成 28年 度	平成 29年 度	平成 30年 度	令和 元年 度	令和2 年度	令和3 年度
d2以上院内発生数	5	5	5	3	6	5	5	3
入院延べ患者数	5,369	8,772	8,706	8,196	8,942	7,965	8,271	7,808
発生率	0.09%	0.06%	0.06%	0.04%	0.07%	0.06%	0.06%	0.04%

参考

施設・組織	年	分子	分母	発生率
聖路加国際病院	令和元年	150	165,435	0.09%
日本病院会	平成30年	—	—	0.08%

解説； 褥瘡数全体は、令和3年度の院内発生褥瘡件数は過去最低であった。NST委員会を中心とする活動の成果であり誇らしく感じる。持ち込み褥瘡の発生も過去最低であり、外来や施設の栄

養管理が向上している。地域が健康になった反映であり喜ばしい。令和3年度の入院患者数に対する発生率は、聖路加国際病院や日本病院会の集計結果よりかなり良好であった。

2) 転倒転落

	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元 年度	令和 2 年度	令和 3 年度
入院延患者数	4,574	6,106	9,538	9,498	9,200	9,751	9,096	8,968	9,069
転倒・転落数	9	12	20	19	15	28	13	24	27
率 (‰)	1.97	1.97	2.1	2	1.63	2.87	1.43	2.68	2.97
損傷発生数	3	6	8	6	2	6	4	8	5
率 (‰)	0.66	0.98	0.84	0.63	0.22	0.62	0.44	0.89	0.55
重度損傷発生数	0	0	2	0	0	2	0	1	3
率 (‰)	0	0	0.21	0	0	0.21	0	0.11	0.33

参考

		入院延患者数	転倒・転落 数	率 (‰)	重度損傷発 生数	率 (‰)
聖路加国際病院	令和元年	174,845	423	2.42	9	0.05
日本病院会	平成 30 年度	—	—	2.72	—	0.05

解説；令和3年度は転倒転落数が増加し、重度障害発生例が増えた。転倒防止に向けた更なる対策が必要である。ベンチマーキングでは、聖路加国際病院や日本病院会の成績に比べ、発生率に大きな差はないが、重度障害発生率（レベル4以上）が劣る。重度障害発生率を下げるのが、喫緊の課題である。

3) MRSA（メチシリン耐性黄色ブドウ球菌）の検出状況

	平成 24年 度	平成 25年 度	平成 26年 度	平成 27年 度	平成 28年 度	平成 29年 度	平成 30年 度	令和 元年 度	令和 2年 度	令和 3年 度
新規院内発生	1	2	2	5	2	4	5	4	4	2
持込み	1	4	1	3	3	1	6	6	10	3
継続	2	7	6	5	6	1	12	5	1	1
外来	1	0	0	1	0	1	1	0	0	0
MRSA 統計	5	13	9	14	11	7	24	15	15	6
MSSA*				37	20	36	24	23	22	21
MRSA 比				27.5%	35.5%	16.3%	50.0%	39.5%	40.5%	22.2%

解説；MRSAの院内新規検出は数例で推移しており、耐性菌管理は適正と考えられる。黄色ブドウ球菌検出例の中で耐性菌の占める割合は低下傾向にある。

4) 培養件数

	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元 年度	令和 2 年度	令和 3 年度
血液培養（総セット数）	122	119	124	251	181	106	96	140
その他の培養	188	240	236	236	206	196	193	200
総培養件数	310	359	360	487	387	302	289	340
2セット血液検体採取	112	118	124	250	180	106	96	140
2セット血液検体採取率	91.8%	99.2%	100.0%	99.6%	99.4%	100%	100%	100%
入院述べ患者数	6,106	9,538	9,498	9,200	9,751	9,096	9,386	9,491
血液培養施行率／1000 患者	20	12.5	13.1	27.3	17.8	11.1	10.2	14.8
陽性例	17	20	25	45	33	15	15	19
陽性率	13.9%	16.8%	20.2%	17.9%	18.2%	14.2%	16.7%	13.6%
汚染件数	0	0	0	1	0	0	0	0
汚染率	0.0%	0.0%	0.0%	0.4%	0%	0%	0%	0%

解説：令和 3 年度の血液培養や全培養数は前年同様であった。血液培養の 2 セット採取は定着している。1000 延べ入院患者あたりの血液培養施行に関しては、回復期（亜急性病院）として目標値の設定を検討中である。血液培養陽性率はほぼ適切と思われる。汚染は低く抑えられている。

5) 待時間調査

		平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度 1 回目	平成 30 年度 2 回目	令和元 年度	令和 2 年度	令和 3 年度
調査人数		263 人	288 人	465 人	611 人	578 人	567 人	574 人	591 人	524 人
平均待 時間	来院～呼ばれた時 間	104 分	69.3 分	70.6 分	60.9 分	74.3 分	78.3 分	60.3 分	46.0 分	54.8 分
	予約時間～呼ばれ た時間		33.6 分	23.4 分	26.8 分	36.9 分	35.4 分	32.5 分	13.5 分	22.3 分
予約患 者対象	予約時間枠内の比 率	47.3%	50.8%	65.7%	59.1%	43.3%	43.0%	47.0%	52.1%	53.5%
	予約時間枠後 30 分 以内の比率				82.7%	66.3%	64.5%	70.7%	77.8%	71.3%

解説；平成 30 年度は、10 月に患者バスがお出かけバスに変わったため、前後 2 回待時間を施行した。平成 30 年度は待ち時間が大きく増加したが、予約枠の再設定、診察開始時間の遵守、

入院患者対応のルール作りなどの対策により、令和元年度は待ち時間が減少しており、令和2年度はさらに改善している。令和3年度も令和2年度とほぼ同様の結果であった。

6) 職員数

	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
常勤	46	49	50	46	46	46	55	54	52
臨時	14	19	24	24	30	30	23	23	26
小計1	60	68	74	70	76	76	78	77	78
包括・健福	3	4	2	3	1	2	2	2	常2、臨1
小計2	63	72	76	73	77	78	80	79	81
委託	11	15	15	15	15	15	14	13	14
総計	74	87	91	88	92	93	94	92	95

	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
常勤医指数	2→1	3	3	3→2	2	3	3	3→4	4	3→4

解説；病院の運営のためには適正なスタッフ維持が必須であり、町の協力で確保に力を入れている。令和2年度には給食業務が委託から臨時へと変わった。

常勤医師数は、ここ数年は3ないし4名が確保されており充実している。

4. 委員会活動

1) NST（栄養サポートチーム）活動

(1) 入院時スクリーニング

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
入院患者数（人）（a）	425	418	380	420	414	421	443
スクリーニング実施数（人）（b）	375	371	344	388	391	413	438
スクリーニング実施率（%） （b/a）	88.2%	88.8%	90.5%	92.4%	94.4%	98.1%	98.9%
NST対象一次リストアップ数（人）	194	175	188	238	245	262	270

(c)							
NST 対象一次リストアップ率 (%) (c/b)	51.7%	47.2%	54.7%	61.3%	62.7%	63.4%	61.6%
NST 対象最終リストアップ数 (人) (d)	100	57	51	99	66	53	35
NST 対象最終リストアップ率 (%) (d/b)	26.7%	15.4%	14.8%	25.5%	16.9%	12.8%	8.0%
入院後 2 週間以内のカンファ実施 数 (人) (e)	34	34	46	91	54	49	32
入院後 2 週間以内のカンファ実施 率 (%) (e/d)	34.0%	60.7%	90.2%	91.9%	81.8%	92.5%	91.4%

解説 ; NST の入院時スクリーニングは定着している。最近では約 6 割が低栄養として拾い上げられる。令和 3 年度では、最終 NST リストアップ率が低いのが気になるところである。スクリーニングでリストアップされた症例に関する入院後 2 週間以内のカンファ実施率は、平成 29 年度以降は高率に維持されている。

(2) 病棟看護師と歯科衛生士の口腔内スクリーニング

	平成 27 年 度	平成 28 年 度	平成 29 年 度	平成 30 年 度	令和 元 年 度	令和 2 年 度	令和 3 年 度
実施回数 (回)	51	52	50	48	49	47	49
対象患者数 (人) (a)	258	223	175	309	414	286	327
口腔回診実施数 (人) (b)	237	211	169	289	302	285	327
対対象患者口腔回診実施率 (%) (b/a)	91.9%	94.6%	96.6%	93.5%	99.3%	99.7%	100.0%
歯科医師診察必要数 (人) (c)	64	61	49	105	81	81	94
歯科医師診察実施数 (人) (d)	55	49	45	86	79	81	92
歯科医師診察実施率 (%) (d/c)	85.9%	80.3%	91.8%	81.9%	97.5%	100.0%	97.9%
対対象患者歯科医師診察実 施率 (%) (d/a)	21.3%	22.0%	25.7%	27.8%	26.5%	28.4%	28.1%

解説；病棟看護師と歯科衛生士が入院患者の口腔内スクリーニングすることで、早期に口腔内環境・機能に関してタイムリーに治療を開始することが可能となる。対対象患者口腔回診実施率と歯科医師診察実施率は高く維持されている。

(3) 病棟看護師と歯科衛生士のスクリーニング後の歯科医の介入内容

	平成 27 年度		平成 28 年度		平成 29 年度		平成 30 年度		令和元年度		令和 2 年度		令和 3 年度	
義歯関連	30	54.5%	31	63.3%	24	53.3%	43	50.0%	48	60.8%	53	65.4%	48	52.2%
外科処置	5	9.1%	3	6.1%	3	6.7%	20	23.3%	8	10.1%	2	2.5%	6	6.5%
歯周病関連	2	3.6%	1	2.0%	0	0.0%	2	2.3%	3	3.8%	5	6.2%	2	2.2%
その他	6	10.9%	4	8.2%	7	15.6%	4	4.7%	3	3.8%	5	6.2%	5	5.4%
診査のみ	12	21.8%	10	20.4%	11	24.4%	17	19.8%	17	21.5%	16	19.8%	26	28.3%

解説；口腔内環境・機能に関するスクリーニング後の歯科医の介入の内訳では義歯関連が圧倒的に多い。

(4) 入院時のアルブミン値

	平成 26年 度	平成 27年 度	平成 28年 度	平成 29年 度	平成 30年 度	令和 元年 度	令和 2年 度	令和 3年 度
測定数	127	258	251	189	255	252	248	282
3.5g/dL 以下	76 59.8%	164 63.6%	157 62.5%	100 52.9%	148 58.0%	169 67.1%	161 64.9%	156 55.3%
3.0g/dL 以下	44 34.6%	100 38.8%	88 35.1%	53 28.0%	76 29.8%	91 36.1%	23 33.5%	88 31.2%

解説；入院患者のアルブミン値の評価では、6割前後が低栄養、3割が中等後以上の低栄養である。外来、地域での、栄養管理の向上が望まれる。

(5) 血清プレアルブミン値と亜鉛値の測定件数

	平成 27年 度	平成 28年 度	平成 29年 度	平成 30年 度	令和 元年 度	令和 2 年度	令和 3 年度
プレアルブミン	304	190	156	47	4	0	0
亜鉛	324	201	190	201	192	171	222

解説；プレアルブミンは臨床的有意性が評価できずルチンの使用は中止した。亜鉛に関しては、検査科の働きかけで、検査数が増加傾向にある。

(6) 栄養輸液剤、経腸栄養剤、院外門前薬局：すみれ薬局の経腸栄養剤

栄養輸液剤の使用数（本）

	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年 度	令和 2 年 度	令和 3 年 度
イントラリポ ス	100	270	410	386	100	83	88
ビーフリード	960	980	960	871	454	380	155
エルネオパ	100	99	510	328	158	23	54

経腸栄養剤の使用数（本）

	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年 度	令和 2 年 度	令和 3 年 度
ラコール総数	264	168	604	506	728	675	681
エンシュア総 数	2304	1632	408	0	0	0	165

院外門前薬局：すみれ薬局の経腸栄養剤の処方（mL・g）

	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年 度	令和元年 度	令和 2 年 度	令和 3 年 度
エンシュア	387,000	728,500	864,750	921,500	1,084,750	881,000	730,750
エンシュア H	0	0	35,500	347,250	298,000	324,000	204,750
ラコール	332,600	638,800	656,000	1,030,600	1,515,000	1,712,400	1,512,600
ラコール半固 形	0	6,000	0	34,200	0	0	0

解説；経腸栄養剤の処方では全体的には経年的に増加しており、低栄養対策が浸透しつつある。

5. 教育関係

1) 研修、実習受け入れ

(1) 医科、歯科、リハビリテーション部門

	内容	平成 26 年 度	平成 27 年 度	平成 28 年 度	平成 29 年 度	平成 30 年 度	令和元 年度	令和 2 年度	令和 3 年度
医科	研修医；地域医 療	5 名	5 名	6 名	7 名	6 名	6 名	5 名	4 名
	1 年次学生；医 療体験実習	4 名	4 名	4 名	4 名	4 名	4 名	0 名	4 名

	3年次学生；地域医療	2名	2名	2名	2名		2名	0名	1名
	5年次学生；地域医療				1名	1名	8名	0名	0
歯科	研修医；地域医療	4名	7名	4名	5名	8名	11名	0名	4名
	5年次学生；地域医療	4名	4名	4名	4名	4名	4名	2名	4名
リハビリ部門	理学療法科学 生；病院実習	2名	3名	3名	5名	6名	5名	14名	8名

(2) 看護科

	平成 25年 度	平成 26年 度	平成 27年 度	平成 28年 度	平成 29年 度	平成 30年 度	令和 元年 度	令和 2年 度	令和 3年 度
受入れ施設	8施設	9施設	9施設	10施設	6施設	8施設	4施設	4施設	4施設
延べ日数	9日間	26日間	28日間	26日間	35日間	38日間	32日間	33日間	33日間
受入れ人数	19名	60名	70名	57名	50名	48名	48名	48名	8名
延べ研修時間	115時間	257.5時間	429時間	285時間	371時間	342時間	384.5時間	380.5時間	80.75時間
担当スタッフ 延べ数	42名	77名	84名	102名	65名	75名	69名	63名	53名

解説；研修生や実習生の受入れは、一部新型コロナウイルス感染症蔓延の影響で縮小したが、全体的には活発になされている。令和3年度の看護科の研修、実習受け入れ人数の減少は、新型コロナウイルス感染症蔓延に伴う救急救命士の実習中止による。

5) 研修会の参加状況

(1) 感染対策研修

		平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年 度	令和 2年 度	令和 3年 度
1 回目	対象者*	86	86	82	84	81	88	87
	集合研修 参加者	53	61	54	62	55	88	42

	参加率 (%)	62%	71%	66%	74%	68%	100%	47%
	全参加率**	86%	91%	84%	82%	88%	100%	99%
	備考	資料配布	資料配布 (アンケート実施)	ビデオ研修 (アンケート実施)	ビデオ研修 (アンケート実施)	院内講師 ビデオ研修 (アンケート実施)	院内講師 タイペック着脱 (個別実習)	院内講師 ビデオ補修、アンケート実施
2 回 目	対象者*	87	86	82	81	82	86	86
	集合研修参加者	65	65	60	54	40	40	43
	参加率 (%)	75%	76%	73%	67%	48%	48%	50%
	全参加率**	93%	93%	88%	81%	86%	100%	100%
	備考	資料配布 (アンケート実施)	ビデオ研修と手洗い実習	PPE 着脱実習 (アンケート実施)	e-ラーニング	院外講師 ビデオ研修 (アンケート実施)	院外講師 ビデオ補習 (アンケート実施)	院内講師 ビデオ補習 (アンケート実施)

*職員+受付委託

**追加研修を含めた参加率

解説；感染対策の研修会は全員参加が原則で、年2回の開催が義務付けられている。1回目、2回目とも集合研修の参加率には、補講も精力的に行い、最終的にはほぼ100%の受講率となっている。

(2) 安全研修参加

		平成 26年 度	平成 27年 度	平成 28年 度	平成 29年 度	平成 30年 度	令和 元年 度	令和 2年 度	令和 3年 度
目 1 回	対象者*	73	88	86	82	82	82	78	78

	参加者	55	73	58	57	54	48	65	38
	参加率	75%	83%	67%	70%	66%	58%	83%	49%
	全参加率**	75%	97%	92%	88%	84%	83%	100%	100%
2 回 目	対象者*		87	85	81	81	81	78	75
	参加者		61	50	56	51	48	43	38
	参加率		70%	59%	69%	63%	59%	55%	51%
	全参加率**		95%	78%	85%	82%	83%	100%	100%

*職員+受付委託

**追加研修を含めた参加率

解説；医療安全研修会は全員参加が原則であり、年2回の開催が義務付けられている。1回目、2回目とも集合研修の参加率は比較的高い。補講も精力的に行っている。

6. 福利厚生関係

平成28年度から衛生委員会を月1回定期的に開催した。

1) 夏季休暇取得率(%)

	平成28 年度	平成29 年度	平成30 年度	令和元年 度	令和2年 度	令和3年 度
医師	58.3	75	81.3	87.5	35	93.8
医療技術職	88.5	95	98.2	95.3	91.6	95.3
看護師	100	100	100	100	100	100
事務職	85	87.5	93.8	87.5	87.5	93.8
臨時職員・会 計年度職員	96.3	100	100	100	100	100

解説；夏季休暇の取得率は、ほぼ適正を考えられる。

2) 年次休暇取得日数

	平成28 年度	平成29 年度	平成30 年度	令和元年 度	令和2年 度	令和3年 度
医師	4.7	1.4	1.25	2.6	2.2	1
医療技術職	7.1	7.4	7.1	6.9	9.4	9.1
看護師	7	5.7	9.2	9.2	17.2	8.6
事務職	8.1	8.2	13.5	13.5	10.8	8.1
臨時職員・会	7	5.8	6.1	6.3	4.3	4.7

計年度職員								
-------	--	--	--	--	--	--	--	--

解説；年次休暇取得日数はいずれの職種も少なく、増加を目指したい。

3) 超過勤務

	平成 26年 度	平成 27年 度	平成 28年 度	平成 29年 度	平成 30年 度	令和 元 年 度	令和2 年 度	令和3 年 度
時間外勤務	2,730	2,724	3,033	3,112	1,898	1,669	1,363	2,094
月80時間以上の延人数	9	6	4	5	0	0	0	0
月45時間以上の延人数	14	13	22	26	8	1	1	0
年360時間以上の人数	1	1	2	3	3	0	0	0

解説；新型コロナ対応により、令和3年度は時間外勤務が増加した。しかし、長時間勤務者はなく、全体的には着実に減少している。

参考資料：

福井次矢、島田元監修：Quality Indicator「医療の質」を測り改善する聖路加国際病院の先端的試み2020。インターメディカ、東京、2020